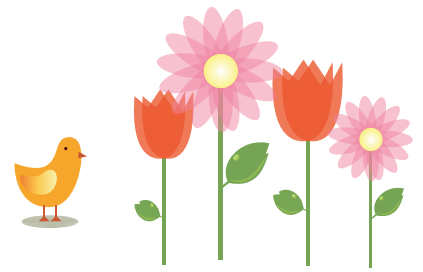


12 水ぼうそう



まずは、水ぼうそうとは？から始めましょう。

水ぼうそうは水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる伝染病で、感染力は麻疹より弱いですが、風疹、おたふく風邪よりは強いです。家庭内で空気感染か接触

感染すると発症率は90%です。潜伏期間は10～21日（多くは2週間後と思ってください）です。水をふくんだ発疹が全身に出てきますが、最初は頭から出始めることも多いです。

発疹は1週間以内に多くはかさぶたとなり、感染力も無くなります。発熱は38度前後が2～3日と、比較的軽くて済みますが、中には高熱が続く人もいます。合併症は1歳以下と15歳以上で急に多くなります。また、小脳失調（バランスがとれなくなり、まず最初は歩くとふらつき、その後座ることもできなくなります）を認めることがあります。治るのですが、しばらくフラフラの状態が続き、可哀想です。

治療方法は、抗ウイルス剤としてアシクロビル（ACV）：ゾビラックスまたはバルトレックスを内服してもらいます。

それでは、みずぼうそうのワクチンって必要なの？

周囲から小さいうちにかかってしまった方がいいよと言われる方がまだ多いんです……。でも、それは軽くて済めばの話で、もし合併症が出たり、発疹もたくさんで痕がいっぱい残ってしまったら（特に女の子は気になりますね）どうでしょうか？小脳失調は本当に見ていて可哀想です。みなさん、病気にかかって良いものは無いんです！合併症が出たり、重症になって入院してしまったら……。かかった方がいいよと言った方も、言われた方も辛くなってしまいます。

1回の接種での抗体獲得率は約92%です。副反応としては、軽度の局所の発赤、腫脹（小児では19%、成人では24%）が主なものです。水痘様発疹の出現は4～6%とされていますが、発疹の個数は5個程度で、全身性の副反応は稀です。水痘ワクチンは、麻疹・風疹などのワクチンと異なり、ワクチン接種によって抗体が獲得されても、水痘ウイルスに暴露した時に発症することが10～20%程度ありえますが、この場合の水痘は極めて軽症で発疹の数も少なく、非典型的であることが殆どです。また、接触後72時間以内のワクチン接種も効果が認められています。他には、接触後8日目頃から1週間薬を内服して予防する方法もありますが、一時的な物です。以前、アメリカで発表された物ですが、「水痘ワクチン接種は子供達の水痘を85%予防し、中等度から重症の水痘に関しては97%予防することが可能であった。」と述べています。また最近では、高齢者に対する帯状疱疹の予防として、水痘ワクチンを接種する試みが海外および国内でも始まっており、今後の結果が期待されています。

以上の文を読んで、みなさんはどうしますか？

水痘ワクチンは任意接種であり、自費で6000～7000円程度かかることが多く、兄弟全員ではかなり高くなってしまいますが、もし、まだかかっていなく、ワクチンを接種していない方がいましたらもう一度考えてみてください。

それと、ワクチン接種ですが、特に保育園や幼稚園に行っているお子さんはいつも咳が出ていたり、鼻水が出ていることがあります。その場合でも1週間以内に発熱が無ければほとんどはワクチンを接種することができます。心配な時は是非相談して下さい。